宮城民医連
東日本大震災

災害復興ニュース

ニュース　=第67号=
発行日　2011年9月5日
発行　宮城民医連

9月3日宮城民医連職員の取組み

仮設に笑顔を届けようプロジェクト

集会所でお弁当の詰め方をする高津副院長と坂病院職員

水風船担当の坂病院リハのスタッフ

健康相談会は、香川民医連から呼吸器の研修に来ている原田先生。震災の時は医療応援にも（本ニュース　3月19日付　第10号）

集会所に来れなかった人のため訪問、庄司先生と大槻さん

多賀城公園の仮設住宅

被災者の声

◆チリ地震を体験していたので、これは津波が来ると思って市役所の方に逃げたが高台の方にだれもいなかった。砂押川が決壊し黒い水が押し寄せてきた（60代、男性）

◆義援金を2回頂いたがすぐに無くなってしまう。定年が近いので給料も低く、これからのことを考えると心配。（60代、男性）

◆役人や国会議員の人は自分が被災していないから、他人事なのでは？　一度避難所生活をして体験してみたら（60代、女性）

◆緊急の事態なのだから、例えば急を要しない自衛隊の装備など後回しにして、予算を震災にまわしたらどうか（62歳、男性）

◆桜木で津波に遭った。民間のアパートを借りているが、情報が入らない。仮設では時々食料品の配布など行われていると聞いているが（Y.S　37歳、女性）

◆大代5丁目で被災、アパートだったので戻れない。（70代、女性）